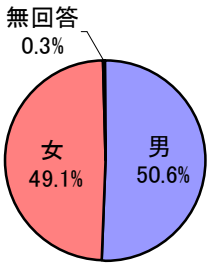
第２章　乳幼児

1　ご家族やお住まいのことについて

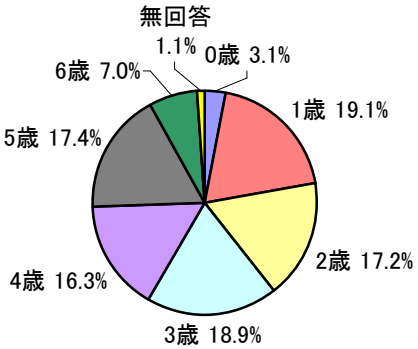
問１　あなた（保護者）のご家族についてお聞きします。

問1（1）対象のお子さんの性別	人数	割合
男	666	50.6%
女	646	49.1%
無回答	4	0.3%
合計	1,316	100.0%



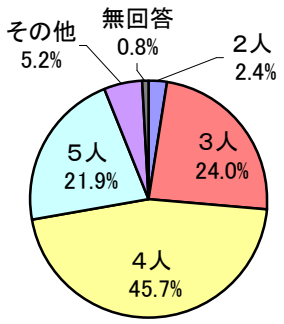
性別については、「男」が 50.6%、「女」が 49.1%となっている。

問1（1）対象のお子さんの年齢	人数	割合
0歳	41	3.1%
1歳	251	19.1%
2歳	226	17.2%
3歳	249	18.9%
4歳	214	16.3%
5歳	229	17.4%
6歳	92	7.0%
無回答	14	1.1%
合計	1,316	100.0%



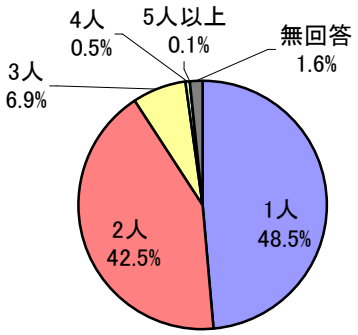
年齢については、「１歳」が 19.1%と最も多く、次いで「３歳」が 18.9%、「５歳」が 17.4%となっている。

問1（2）家族の人数	人数	割合
2人	32	2.4%
3人	316	24.0%
4人	601	45.7%
5人	288	21.9%
その他	69	5.2%
無回答	10	0.8%
合計	1,316	100.0%



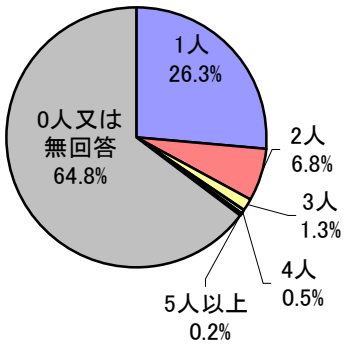
家族の人数については、「４人」が 45.7％と最も多く、次いで「３人」が 24.0％、「５人」が 21.9％となっている。

問1（3）子どもの人数 （乳幼児）	人数	割合
1人	638	48.5%
2人	559	42.5%
3人	91	6.9%
4人	6	0.5%
5人以上	1	0.1%
無回答	21	1.6%
合計	1,316	100.0%



子どもの人数（乳幼児）については、「１人」が 48.5％、「２人」が 42.5％となっている。

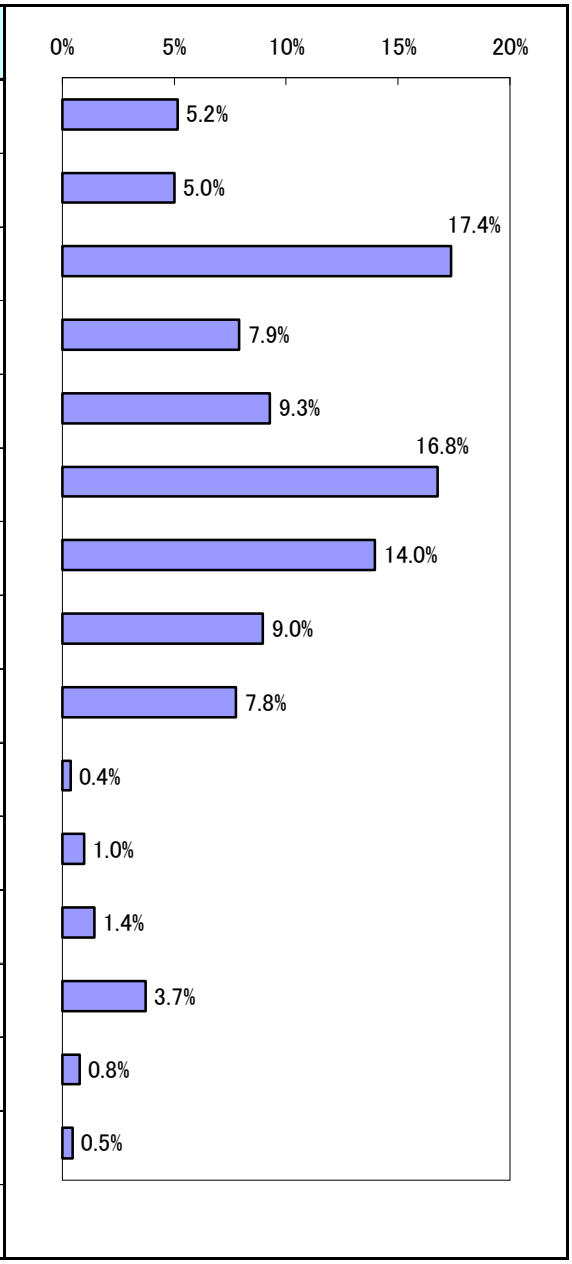
問1（3）子どもの人数 （小学生以上20歳未満）	人数	割合
1人	346	26.3%
2人	90	6.8%
3人	17	1.3%
4人	7	0.5%
5人以上	3	0.2%
0人又は無回答	853	64.8%
合計	1,316	100.0%



子どもの人数（小学生以上 20 歳未満）については、「１人」が 26.3%、「２人」が 6.8%となっている。

問２　あなた（保護者）のお住まいについてお聞きします。

問2（1）地域・地区	人数	割合
中央地区	68	5.2%
上町地区	66	5.0%
鴨池地区	229	17.4%
城西地区	104	7.9%
武・田上地区	122	9.3%
谷山北部地区	221	16.8%
谷山地区	184	14.0%
伊敷地域	118	9.0%
吉野地域	102	7.8%
桜島地域	5	0.4%
吉田地域	13	1.0%
喜入地域	19	1.4%
松元地域	49	3.7%
郡山地域	10	0.8%
無回答	6	0.5%
合計	1,316	100.0%



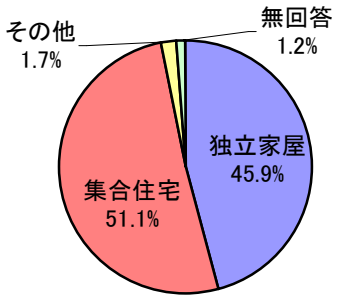
（注）　第五次総合計画に基づく地域・地区

現住所地については、「鴨池地区」が 17.4％と最も多く、次いで「谷山北部地区」が 16.8％、「谷山地区」が 14.0％となっている。

問２（２）　小学校区

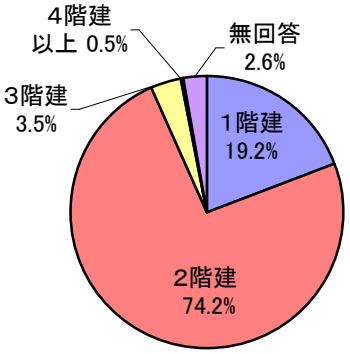
区　分	人数	割合	区　分	人数	割合
吉田小学校	2	0.2%	花野小学校	11	0.8%
本名小学校	3	0.2%	西伊敷小学校	11	0.8%
宮小学校	0	0.0%	伊敷台小学校	21	1.6%
本城小学校	1	0.1%	玉江小学校	35	2.7%
牟礼岡小学校	4	0.3%	小山田小学校	1	0.1%
南方小学校	0	0.0%	犬迫小学校	4	0.3%
花尾小学校	0	0.0%	皆与志小学校	0	0.0%
郡山小学校	11	0.8%	東桜島小学校	2	0.2%
川上小学校	14	1.1%	改新小学校	0	0.0%
吉野小学校	35	2.7%	高免小学校	0	0.0%
吉野東小学校	24	1.8%	黒神小学校	0	0.0%
大明丘小学校	5	0.4%	桜洲小学校	3	0.2%
坂元小学校	16	1.2%	桜峰小学校	0	0.0%
坂元台小学校	13	1.0%	松元小学校	20	1.5%
清水小学校	15	1.1%	東昌小学校	1	0.1%
大龍小学校	7	0.5%	春山小学校	15	1.1%
名山小学校	12	0.9%	石谷小学校	11	0.8%
山下小学校	23	1.7%	谷山小学校	35	2.7%
松原小学校	8	0.6%	西谷山小学校	22	1.7%
城南小学校	7	0.5%	東谷山小学校	35	2.7%
草牟田小学校	20	1.5%	清和小学校	42	3.2%
原良小学校	28	2.1%	和田小学校	34	2.6%
明和小学校	20	1.5%	錦江台小学校	22	1.7%
武岡小学校	16	1.2%	福平小学校	35	2.7%
武岡台小学校	6	0.5%	平川小学校	1	0.1%
西田小学校	20	1.5%	錫山小学校	1	0.1%
武小学校	23	1.7%	中山小学校	49	3.7%
田上小学校	10	0.8%	桜丘西小学校	4	0.3%
西陵小学校	25	1.9%	桜丘東小学校	0	0.0%
広木小学校	22	1.7%	星峯西小学校	1	0.1%
中洲小学校	9	0.7%	星峯東小学校	2	0.2%
荒田小学校	10	0.8%	宮川小学校	13	1.0%
八幡小学校	26	2.0%	皇徳寺小学校	19	1.4%
中郡小学校	22	1.7%	瀬々串小学校	4	0.3%
紫原小学校	37	2.8%	中名小学校	2	0.2%
西紫原小学校	25	1.9%	喜入小学校	11	0.8%
鴨池小学校	19	1.4%	前之浜小学校	2	0.2%
南小学校	15	1.1%	生見小学校	0	0.0%
宇宿小学校	16	1.2%	一倉小学校	0	0.0%
向陽小学校	17	1.3%	無回答	240	18.2%
伊敷小学校	21	1.6%	合計	1,316	100.0%

問2(3)住居の形態	人数	割合
独立家屋	604	45.9%
集合住宅	673	51.1%
その他	23	1.7%
無回答	16	1.2%
合計	1,316	100.0%



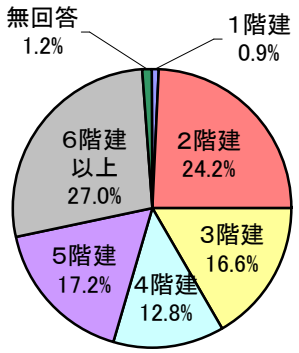
住居の形態については、「集合住宅」が 51.1%、「独立家屋」が 45.9%となっている。

問2(3)住居の形態 (独立家屋　階建)	人数	割合
1階建	116	19.2%
2階建	448	74.2%
3階建	21	3.5%
4階建以上	3	0.5%
無回答	16	2.6%
合計	604	100.0%



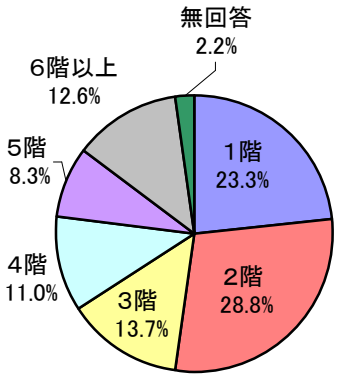
独立家屋の住居の形態ついては、「２階建」が 74.2%と最も多く、次いで「１階建」が 19.2%、「３階建」が 3.5%となっている。

問2(3)住居の形態 （集合住宅　建物の階数）	人数	割合
1階建	6	0.9%
2階建	163	24.2%
3階建	112	16.6%
4階建	86	12.8%
5階建	116	17.2%
6階建以上	182	27.0%
無回答	8	1.2%
合計	673	100.0%



集合住宅の建物の階数ついては、「６階建以上」が 27.0%と最も多く、次いで「２階建」が 24.2%、「５階建」が 17.2%となっている。

問2(3)住居の形態 （集合住宅　居住している階数）	人数	割合
1階	157	23.3%
2階	194	28.8%
3階	92	13.7%
4階	74	11.0%
5階	56	8.3%
6階以上	85	12.6%
無回答	15	2.2%
合計	673	100.0%

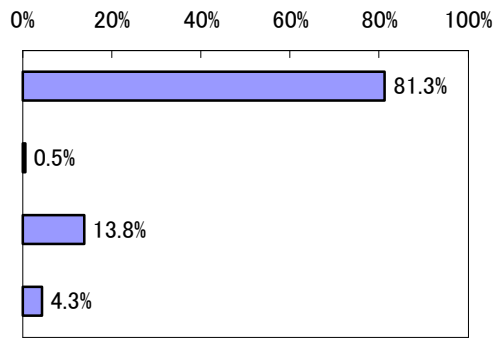


集合住宅の居住している階数ついては、「２階」が 28.8%と最も多く、次いで「１階」が 23.3%、「３階」が 13.7%となっている。

2　セーフコミュニティについて

問３　セーフコミュニティは、「事故やけがなどは偶然の結果ではなく、未然に防ぐことができる」という理念に基づいた安全向上の取組です。あなた（保護者）は、この考えについてどう思いますか。（ひとつに○）

問3	人数	割合
賛同する	1,070	81.3%
賛同しない	7	0.5%
分からない	182	13.8%
無回答	57	4.3%
合計	1,316	100.0%

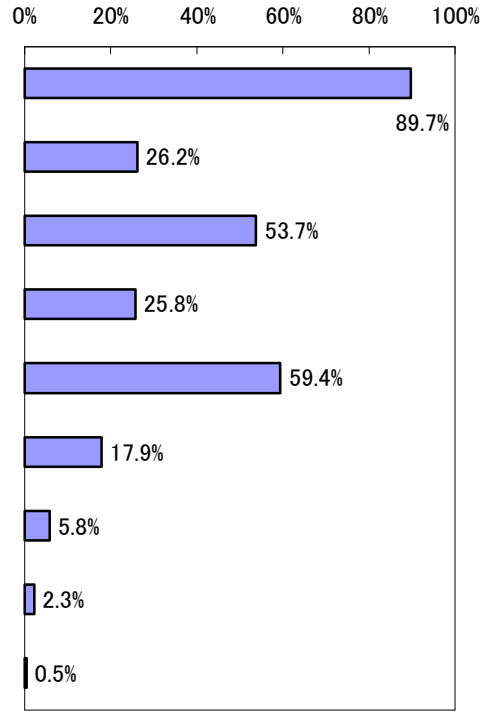


セーフコミュニティの考えについては、「賛同する」が 81.3%となっている。

３　不慮の事故について

問４　不慮の事故とは、交通事故、転倒、転落、おぼれた、やけど、窒息、中毒などをいいますが、一緒に住んでいるお子さんに対し、特に注意している不慮の事故は何ですか。（３つまで○）

問4	件数	割合
交通事故	1,181	89.7%
転倒	345	26.2%
転落	707	53.7%
おぼれた	339	25.8%
やけど	782	59.4%
窒息	235	17.9%
中毒	76	5.8%
その他	30	2.3%
無回答	6	0.5%
回答人数	1,316	
回答件数（複数回答）合計	3,701	

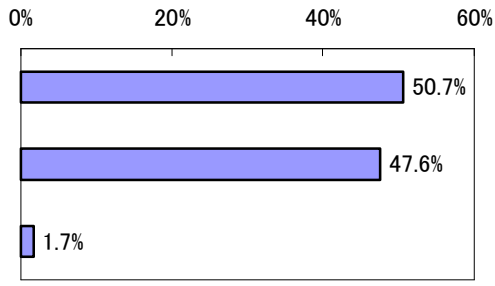


特に注意している不慮の事故については、「交通事故」が 89.7％と最も多く、次いで[やけど」が 59.4％、「転倒」が 53.7％となっている。

「その他」の具体的な内容としては、「誤飲」、「ドアに挟まった」等が挙げられた。

問５　対象のお子さんが、この１年間（平成 23 年８月～平成 24 年７月）にもう少しで「事故やけが」に遭いそうになりヒヤリとしたことはありますか。（ひとつに○）

問5	人数	割合
ある	667	50.7%
ない	627	47.6%
無回答	22	1.7%
合計	1,316	100.0%



１年間に事故･けがに遭いそうになりヒヤリとしたことについては､｢ある｣が 50.7%、「ない」が 47.6%となっている。

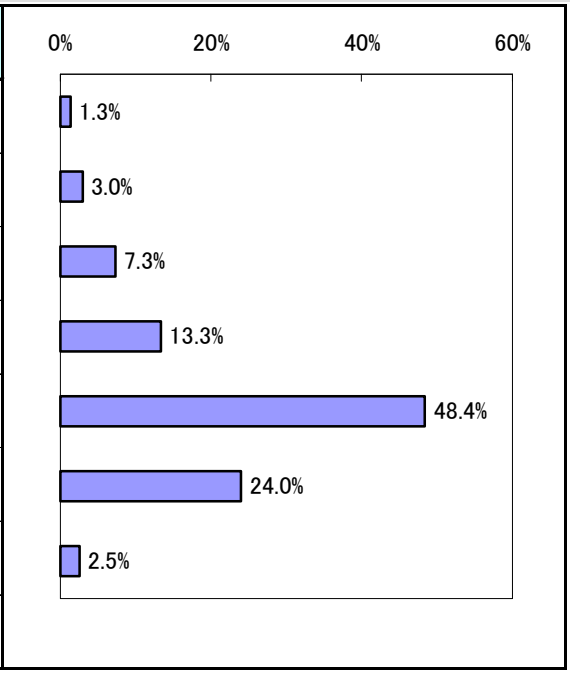
【属性別特徴】

性別の女児、年齢別の３歳以上では、「ない」が「ある」を上回っており、全体と逆の傾向がみられる。

問5	全体		お子さんの性別				お子さんの年齢			
			男		女		2歳以下		3歳以上	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
ある	667	50.7%	357	53.6%	308	47.7%	299	57.7%	359	45.8%
ない	627	47.6%	296	44.4%	329	50.9%	211	40.7%	412	52.6%
無回答	22	1.7%	13	2.0%	9	1.4%	8	1.5%	13	1.7%
合計	1,316	100.0%	666	100.0%	646	100.0%	518	100.0%	784	100.0%

問５－１　この１年間に対象のお子さんで、ヒヤリとしたことは、どのくらいの頻度でありますか。（一番近いものひとつに○）

問5－1	人数	割合
毎日5回以上	9	1.3%
毎日5回未満	20	3.0%
2、3日に数回	49	7.3%
1～2週間に数回	89	13.3%
1か月に数回	323	48.4%
その他	160	24.0%
無回答	17	2.5%
合計	667	100.0%



１年間に事故・けがに遭いそうになりヒヤリとした頻度については、「１か月に数回」が 48.4％と最も多く、次いで「１～２週間に数回」が 13.3％、「２、３日に数回」が 7.3％となっている。

「その他」の具体的な内容としては、「年に１～２回」、「２～３か月に１回」等が挙げられた。

【属性別特徴】

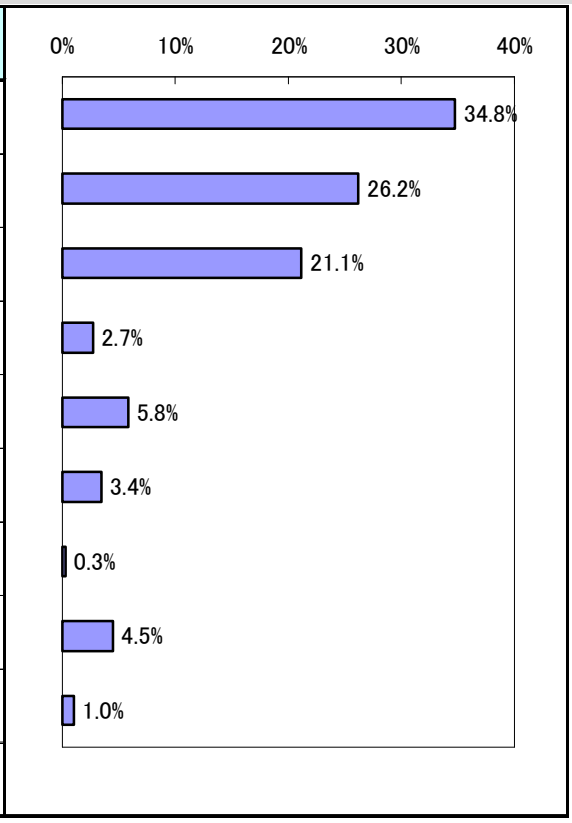
性別では、大きな違いはみられない。

年齢別では、２歳以下の「毎日５回以上」、「毎日５回未満」、「２、３日に数回」、「１～２週間に数回」の割合が、いずれも３歳以上を上回っている。

問5－1	全体		お子さんの性別				お子さんの年齢			
			男		女		2歳以下		3歳以上	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
毎日5回以上	9	1.3%	6	1.7%	3	1.0%	6	2.0%	3	0.8%
毎日5回未満	20	3.0%	10	2.8%	10	3.2%	12	4.0%	8	2.2%
2、3日に数回	49	7.3%	28	7.8%	21	6.8%	28	9.4%	20	5.6%
1～2週間に数回	89	13.3%	49	13.7%	40	13.0%	48	16.1%	41	11.4%
1か月に数回	323	48.4%	167	46.8%	154	50.0%	137	45.8%	180	50.1%
その他	160	24.0%	91	25.5%	69	22.4%	64	21.4%	95	26.5%
無回答	17	2.5%	6	1.7%	11	3.6%	4	1.3%	12	3.3%
合計	667	100.0%	357	100.0%	308	100.0%	299	100.0%	359	100.0%

問５－２　この１年間に対象のお子さんで、一番多くヒヤリとした体験は何ですか。（ひとつに○）

問5－2	人数	割合
交通事故	232	34.8%
転倒	175	26.2%
転落	141	21.1%
おぼれた	18	2.7%
やけど	39	5.8%
窒息	23	3.4%
中毒	2	0.3%
その他	30	4.5%
無回答	7	1.0%
合計	667	100.0%



１年間に一番多くヒヤリとした体験については、「交通事故」が 34.8%と最も多く、次いで「転倒」が 26.2%、「転落」が 21.1%となっている。

「その他」の具体的な内容としては、「手（指）を挟んだ」、「誤飲」等が挙げられた。

【属性別特徴】

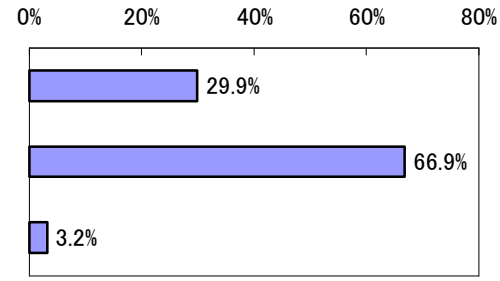
性別では、男児の「交通事故」が 38.9%で、女児の 30.2%に比べてやや高くなっている。

年齢別では、２歳以下で「転落」が 32.8%と最も多く、次いで「転倒」が 30.1%、「交通事故」が 14.4%となっている。また、３歳以上の「交通事故」が 51.5%で、３歳以上のヒヤリ体験全体の約半分を占めている。

問5－2	全体		お子さんの性別				お子さんの年齢			
			男		女		2歳以下		3歳以上	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
交通事故	232	34.8%	139	38.9%	93	30.2%	43	14.4%	185	51.5%
転倒	175	26.2%	87	24.4%	86	27.9%	90	30.1%	82	22.8%
転落	141	21.1%	76	21.3%	65	21.1%	98	32.8%	41	11.4%
おぼれた	18	2.7%	6	1.7%	12	3.9%	9	3.0%	9	2.5%
やけど	39	5.8%	19	5.3%	20	6.5%	24	8.0%	15	4.2%
窒息	23	3.4%	13	3.6%	10	3.2%	15	5.0%	8	2.2%
中毒	2	0.3%	2	0.6%	0	0.0%	2	0.7%	0	0.0%
その他	30	4.5%	12	3.4%	18	5.8%	15	5.0%	15	4.2%
無回答	7	1.0%	3	0.8%	4	1.3%	3	1.0%	4	1.1%
合計	667	100.0%	357	100.0%	308	100.0%	299	100.0%	359	100.0%

問６　対象のお子さんは、この１年間に「事故やけが」の経験がありますか。（ひとつに○）

問6	人数	割合
ある	394	29.9%
ない	880	66.9%
無回答	42	3.2%
合計	1,316	100.0%



１年間の事故やけがの経験については、「ある」が 29.9%、「ない」が 66.9%となっている。

【属性別特徴】

性別では、大きな違いはみられない。

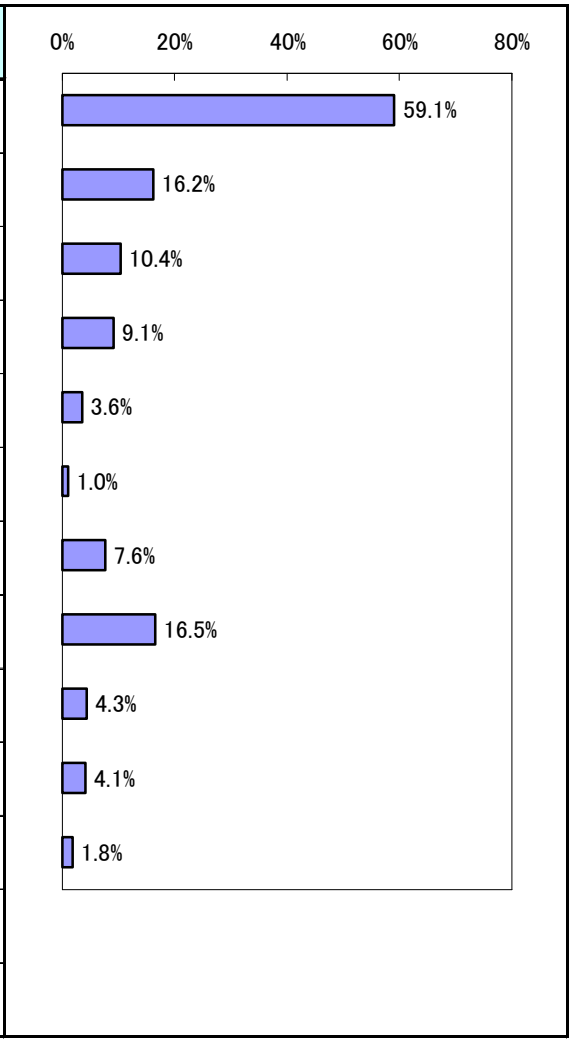
年齢別では、２歳以下の「ある」が 34.9%で、３歳以上の 26.7%に比べてやや高くなっている。また、２歳以下の約３人に１人（34.9%）、３歳以上の約４人に１人（26.7%）が「ある」と回答している。

問6	全体		お子さんの性別				お子さんの年齢			
			男		女		2歳以下		3歳以上	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
ある	394	29.9%	209	31.4%	185	28.6%	181	34.9%	209	26.7%
ない	880	66.9%	440	66.1%	436	67.5%	322	62.2%	548	69.9%
無回答	42	3.2%	17	2.6%	25	3.9%	15	2.9%	27	3.4%
合計	1,316	100.0%	666	100.0%	646	100.0%	518	100.0%	784	100.0%

問７　対象のお子さんのこの１年間（平成 23 年８月～平成 24 年７月）にあった事故やけがについて、ア：場所、イ：種類、ウ：医療機関の受診の状況、エ：その事故やけがを未然に防ぐことができた可能性を、それぞれ１つずつ、該当する番号でご回答ください。事故やけがの経験が複数ある場合は、最大２件までご回答ください。

ア　事故やけがをした場所

問7　ア	件数	割合
自宅（屋内）	233	59.1%
自宅の庭など（屋外）	64	16.2%
歩道・道路	41	10.4%
公園・広場	36	9.1%
車・電車・バスなどの中	14	3.6%
海・川・湖・池	4	1.0%
商業・飲食・娯楽施設	30	7.6%
保育園・幼稚園・その他通園施設	65	16.5%
公共の場所（市の施設など）	17	4.3%
その他	16	4.1%
無回答	7	1.8%
回答人数	394	
回答件数（1件目と2件目）合計	527	



事故やけがをした場所については、「自宅（屋内）」が 59.1％と最も多く、次いで「保育園・幼稚園・その他通園施設」が 16.5％、「自宅の庭など（屋外）」が 16.2％となっている。

「その他」の具体的な内容としては、「駐車場」等が挙げられた。

【属性別特徴】

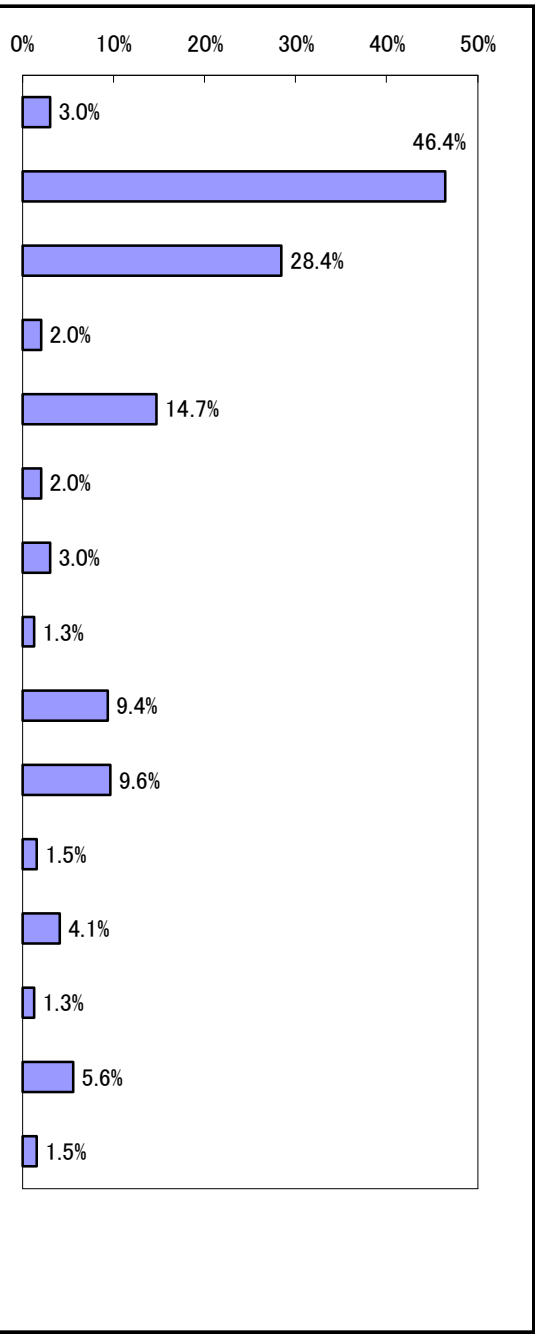
性別では、男児の「公園・広場」が 12.4%で、女児の 5.4%に比べてやや高くなっている。また、女児の「商業・飲食・娯楽施設」が 10.8%で、男児の 4.8%に比べてやや高くなっている。

年齢別では、２歳以下の「自宅（屋内)」が 80.7%で、３歳以上の 38.8%に比べて非常に高くなっている。また、３歳以上の「保育園・幼稚園・その他通園施設」が 27.3%で、２歳以下の 4.4%に比べて高くなっている。

問7 ア	全体		お子さんの性別				お子さんの年齢			
			男		女		2歳以下		3歳以上	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
自宅(屋内)	233	59.1%	122	58.4%	111	60.0%	146	80.7%	81	38.8%
自宅の庭など(屋外)	64	16.2%	36	17.2%	28	15.1%	24	13.3%	40	19.1%
歩道・道路	41	10.4%	26	12.4%	15	8.1%	11	6.1%	30	14.4%
公園・広場	36	9.1%	26	12.4%	10	5.4%	13	7.2%	23	11.0%
車・電車・バスなどの中	14	3.6%	8	3.8%	6	3.2%	7	3.9%	7	3.3%
海・川・湖・池	4	1.0%	2	1.0%	2	1.1%	0	0.0%	4	1.9%
商業・飲食・娯楽施設	30	7.6%	10	4.8%	20	10.8%	18	9.9%	12	5.7%
保育園・幼稚園・その他通園施設	65	16.5%	30	14.4%	35	18.9%	8	4.4%	57	27.3%
公共の場所(市の施設など)	17	4.3%	8	3.8%	9	4.9%	8	4.4%	9	4.3%
その他	16	4.1%	11	5.3%	5	2.7%	7	3.9%	9	4.3%
無回答	7	1.8%	4	1.9%	3	1.6%	3	1.7%	4	1.9%
回答人数	394		209		185		181		209	
回答件数(1件目と2件目)合計	527		283		244		245		276	

イ　事故やけがの種類

問7　イ	件数	割合
交通事故	12	3.0%
転倒	183	46.4%
転落	112	28.4%
おぼれた	8	2.0%
やけど（熱湯、アイロンなど）	58	14.7%
異物などの誤飲（たばこの吸殻など）	8	2.0%
窒息（のどに食べ物をつまらせたなど）	12	3.0%
中毒（洗剤を飲みこんだ、煙を吸ったなど）	5	1.3%
ドアなどに挟まった	37	9.4%
人や物との接触	38	9.6%
ハサミなどの鋭利なものでのけが	6	1.5%
虫にさされた、動物にかまれた	16	4.1%
物の落下	5	1.3%
その他	22	5.6%
無回答	6	1.5%
回答人数	394	
回答件数（1件目と2件目）合計	528	



事故やけがの種類については、「転倒」が 46.4％と最も多く、次いで「転落」が 28.4％、「やけど（熱湯、アイロンなど）」が 14.7％となっている。

「その他」の具体的な内容としては、「耳に細い棒（ペン）が入った」等が挙げられた。

【属性別特徴】

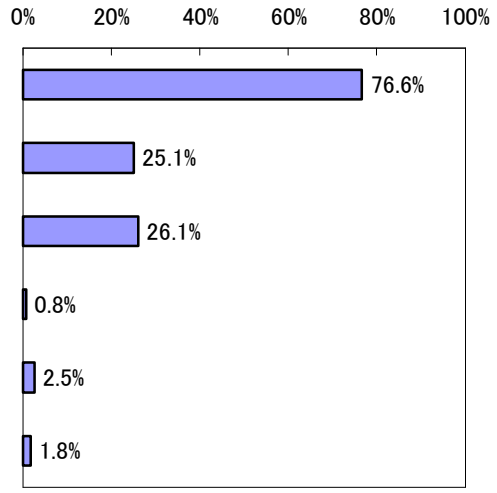
性別では、男児の「転落」が 32.5%で、女児の 23.8%に比べてやや高くなっている。

年齢別では、２歳以下の「転落」が 39.8%で、３歳以上の 18.2%に比べて高くなっている。また、３歳以上の「人や物との接触」が 13.9%で、２歳以下の 5.0%に比べてやや高くなっている。

問7 イ	全体		お子さんの性別				お子さんの年齢			
			男		女		2歳以下		3歳以上	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
交通事故	12	3.0%	8	3.8%	4	2.2%	3	1.7%	9	4.3%
転倒	183	46.4%	101	48.3%	82	44.3%	81	44.8%	100	47.8%
転落	112	28.4%	68	32.5%	44	23.8%	72	39.8%	38	18.2%
おぼれた	8	2.0%	2	1.0%	6	3.2%	1	0.6%	7	3.3%
やけど（熱湯、アイロンなど）	58	14.7%	30	14.4%	28	15.1%	27	14.9%	29	13.9%
異物などの誤飲（たばこの吸い殻など）	8	2.0%	2	1.0%	6	3.2%	7	3.9%	1	0.5%
窒息（のどに食べ物をつまらせたなど）	12	3.0%	8	3.8%	4	2.2%	7	3.9%	5	2.4%
中毒（洗剤を飲みこんだ、煙を吸ったなど）	5	1.3%	2	1.0%	3	1.6%	5	2.8%	0	0.0%
ドアなどに挟まった	37	9.4%	17	8.1%	20	10.8%	14	7.7%	23	11.0%
人や物との接触	38	9.6%	20	9.6%	18	9.7%	9	5.0%	29	13.9%
ハサミなどの鋭利なものでのけが	6	1.5%	4	1.9%	2	1.1%	3	1.7%	3	1.4%
虫に刺された、動物にかまれた	16	4.1%	7	3.3%	9	4.9%	8	4.4%	8	3.8%
物の落下	5	1.3%	1	0.5%	4	2.2%	1	0.6%	4	1.9%
その他	22	5.6%	10	4.8%	12	6.5%	6	3.3%	16	7.7%
無回答	6	1.5%	4	1.9%	2	1.1%	2	1.1%	4	1.9%
回答人数	394		209		185		181		209	
回答件数（1件目と2件目）合計	528		284		244		246		276	

ウ　医療機関の受診

問7　ウ	件数	割合
家庭などの手当てで済んだ	302	76.6%
医療機関に1回通院した	99	25.1%
医療機関に2回以上通院した（している）	103	26.1%
医療機関に入院した（している）	3	0.8%
その他	10	2.5%
無回答	7	1.8%
回答人数	394	
回答件数（1件目と2件目）合計	524	



医療機関の受診については、「家庭などの手当てで済んだ」が 76.6％と最も多く、次いで「医療機関に２回以上通院した（している）」が 26.1％、「医療機関に１回通院した」が 25.1％となっている。

【属性別特徴】

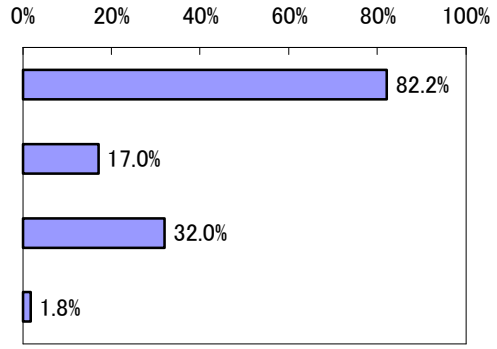
性別では、女児の「家庭などの手当てで済んだ」が 81.1%で、男児の 72.7%に比べてやや高くなっている。

年齢別では、２歳以下の「家庭などの手当てで済んだ」が 84.5%で、３歳以上の 68.9%に比べて高くなっている。また、３歳以上の「医療機関に２回以上通院した（している）」が 36.4%で、２歳以下の 14.9%に比べて高くなっている。

問7 ウ	全体		お子さんの性別				お子さんの年齢			
			男		女		2歳以下		3歳以上	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
家庭などの手当てで済んだ	302	76.6%	152	72.7%	150	81.1%	153	84.5%	144	68.9%
医療機関に1回通院した	99	25.1%	56	26.8%	43	23.2%	53	29.3%	45	21.5%
医療機関に2回以上通院した（している）	103	26.1%	60	28.7%	43	23.2%	27	14.9%	76	36.4%
医療機関に入院した（している）	3	0.8%	3	1.4%	0	0.0%	2	1.1%	1	0.5%
その他	10	2.5%	6	2.9%	4	2.2%	7	3.9%	3	1.4%
無回答	7	1.8%	5	2.4%	2	1.1%	2	1.1%	5	2.4%
回答人数	394		209		185		181		209	
回答件数（1件目と2件目）合計	524		282		242		244		274	

エ　未然に防ぐことができた可能性

問7　エ	件数	割合
防ぐことができた	324	82.2%
防ぐことはできなかった	67	17.0%
わからない	126	32.0%
無回答	7	1.8%
回答人数	394	
回答件数（1件目と2件目）合計	524	



未然に防ぐことができた可能性については、「防ぐことができた」が 82.2％と最も多く、次いで「分からない」が 32.0％、「防ぐことはできなかった」が 17.0％となっている。

【属性別特徴】

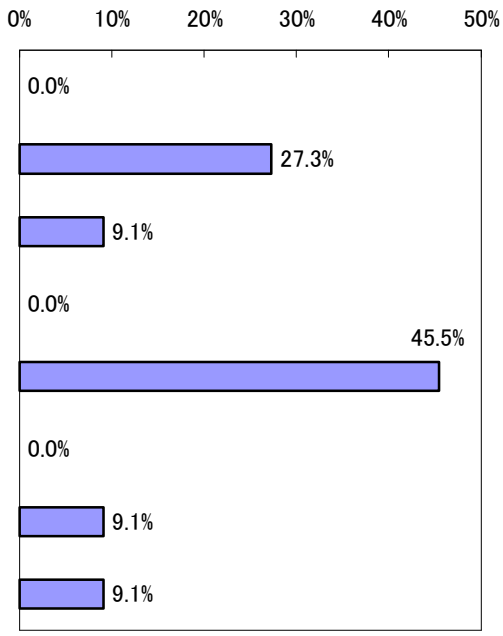
性別では、女児の「防ぐことができた」が 86.5％で、男児の 78.5％に比べてやや高くなっている。

年齢別では、２歳以下の「防ぐことができた」が 89.0％で、３歳以上の 75.6％に比べて高くなっている。

問7　エ	全体		お子さんの性別				お子さんの年齢			
			男		女		2歳以下		3歳以上	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
防ぐことができた	324	82.2%	164	78.5%	160	86.5%	161	89.0%	158	75.6%
防ぐことはできなかった	67	17.0%	43	20.6%	24	13.0%	26	14.4%	41	19.6%
わからない	126	32.0%	71	34.0%	55	29.7%	55	30.4%	70	33.5%
無回答	7	1.8%	4	1.9%	3	1.6%	2	1.1%	5	2.4%
回答人数	394		209		185		181		209	
回答件数（1件目と2件目）合計	524		282		242		244		274	

問７－１　交通事故時の対象のお子さんの状況（ひとつに○）

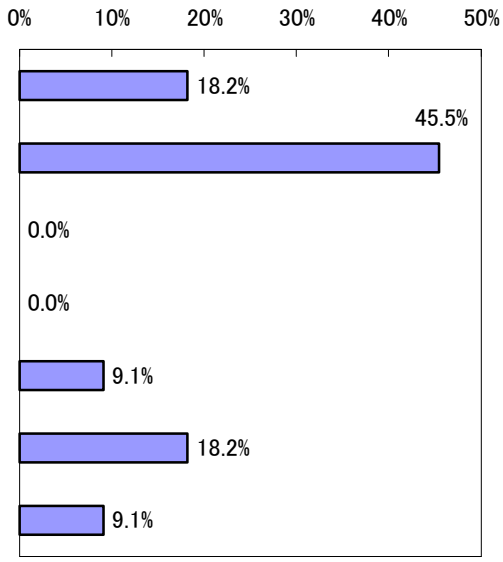
問7－1	人数	割合
歩行中（保護者などが抱っこ、ベビーカーなどに乗せていた場合も含む）	0	0.0%
歩行中（自分で歩行）	3	27.3%
自転車に乗っていた（保護者などが運転）	1	9.1%
自転車または三輪車などに乗っていた（自分で運転）	0	0.0%
車でチャイルドシートに座っていた	5	45.5%
車でチャイルドシートに座っていなかった	0	0.0%
その他	1	9.1%
無回答	1	9.1%
合計	11	100.0%



交通事故時の状況については、「車でチャイルドシートに座っていた」が 45.5%、「歩行中（自分で歩行）」が 27.3%、「自転車に乗っていた（保護者などが運転）」が 9.1%となっている。

問７－２　交通事故の原因（ひとつに○）

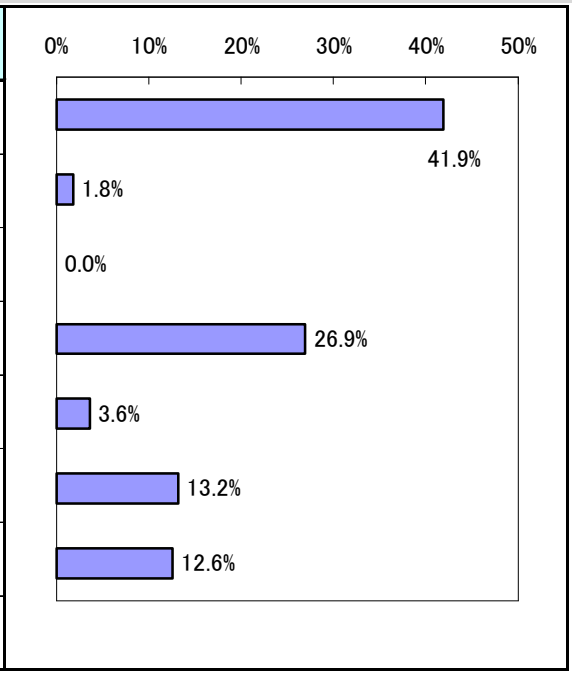
問7－2	人数	割合
自転車との接触	2	18.2%
車・バイクとの接触	5	45.5%
歩行者との接触	0	0.0%
壁や電柱などとの接触	0	0.0%
自分で転倒した	1	9.1%
その他	2	18.2%
無回答	1	9.1%
合計	11	100.0%



交通事故の原因については、「車・バイクとの接触」が 45.5%、「自転車との接触」が 18.2%、「自分で転倒した」が 9.1%となっている。

問７－３　転倒の原因（ひとつに○）

問7－3	人数	割合
段差、ものに足をひっかけた	70	41.9%
友だちなどに押された	3	1.8%
手をひっぱられた（犬の散歩など）	0	0.0%
すべった	45	26.9%
人や物との接触	6	3.6%
その他	22	13.2%
無回答	21	12.6%
合計	167	100.0%

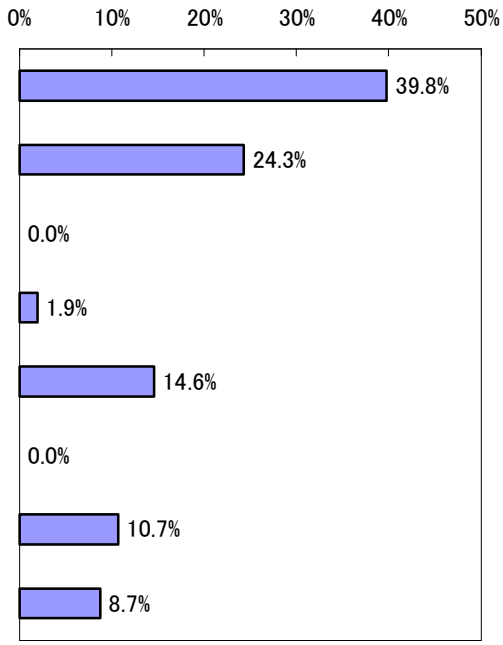


転倒の原因については、「段差、ものに足をひっかけた」が 41.9％と最も多く、次いで「すべった」が 26.9％、「人や物との接触」が 3.6％となっている。

「その他」の具体的な内容としては、「いすや自転車等で転倒した」、「坂道でつまずいた」等が挙げられた。

問７－４　転落の原因（ひとつに○）

問7－4	人数	割合
ベッド、椅子、ソファーから落ちた	41	39.8%
階段から落ちた	25	24.3%
ベランダ、屋上から落ちた	0	0.0%
抱き上げていて落としてしまった	2	1.9%
遊具（ジャングルジムなど）で遊んでいて落ちた	15	14.6%
川や海などに落ちた	0	0.0%
その他	11	10.7%
無回答	9	8.7%
合計	103	100.0%

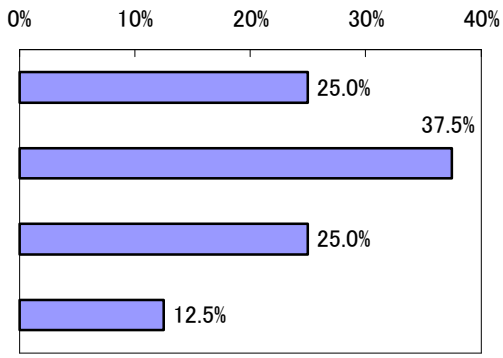


転落の原因については、「ベッド、椅子、ソファーから落ちた」が 39.8%と最も多く、次いで「階段から落ちた」が 24.3%、「遊具（ジャングルジムなど）で遊んでいて落ちた」が 14.6%となっている。

「その他」の具体的な内容としては、「縁側から落ちた」、「車に乗ろうとして落ちた」、「カートから落ちた」等が挙げられた。

問７－５　おぼれた場所（ひとつに○）

問7－5	人数	割合
お風呂場	2	25.0%
プール（子ども用プールを含む）	3	37.5%
海・川・湖・池	2	25.0%
その他	1	12.5%
合計	8	100.0%

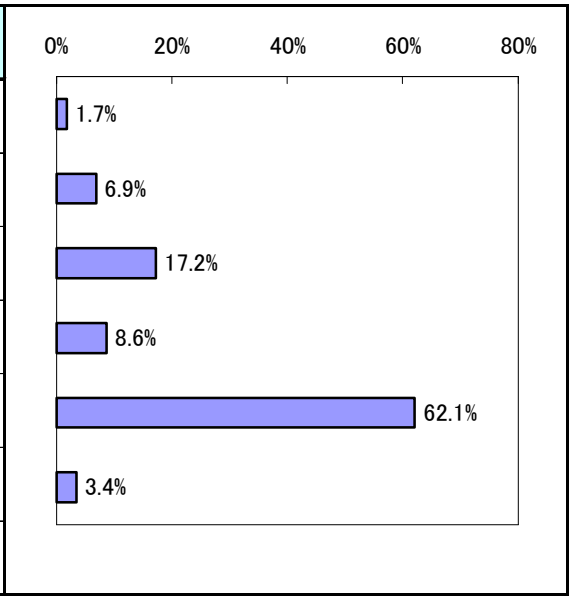


おぼれた場所については、「プール（子ども用プールを含む）」が 37.5%、「お風呂場」、「海・川・湖・池」が 25.0%となっている。

「その他」の具体的な内容としては、「公園の噴水」が挙げられた。

問７－６　やけどの原因（ひとつに○）

問7－6	人数	割合
お風呂の湯・シャワー	1	1.7%
やかん・ポット	4	6.9%
花火	10	17.2%
暖房機（ストーブなど）	5	8.6%
その他	36	62.1%
無回答	2	3.4%
合計	58	100.0%



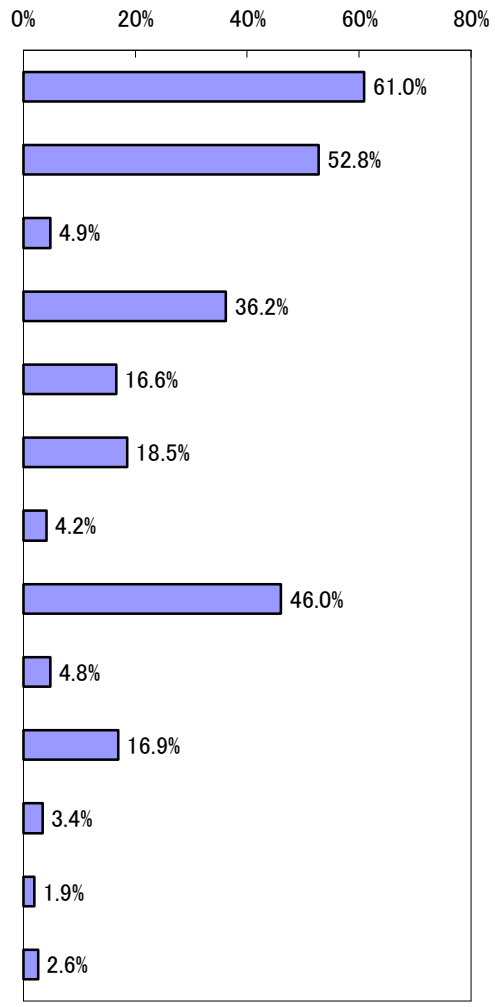
やけどの原因については、「花火」が 17.2%と、「暖房機（ストーブなど）」が 8.6%、「やかん・ポット」が 6.9%となっている。

「その他」の具体的な内容としては、「アイロン」、「ホットプレート」、「炊飯器の蒸気」等が挙げられた。

問８　お子さんの事故やけがの予防に関する情報は、なに（どこ）から得ていますか。また、お子さんの事故やけがの予防のために、より充実して欲しいと思うものは、なに（どこ）ですか。（３つまで○）

問８　お子さんの事故やけがの予防に関する情報は、なに（どこ）から得ていますか。（３つまで○）

問8	件数	割合
家族・親戚	803	61.0%
友人・知人	695	52.8%
子育てサークルなど	64	4.9%
テレビ・ラジオ	476	36.2%
育児雑誌	218	16.6%
インターネット（SNSを含む）	244	18.5%
子育て教室・講座	55	4.2%
保育園・幼稚園	606	46.0%
保健所	63	4.8%
病院	223	16.9%
子育て支援施設（りぼんかん・なかまっちなど）	45	3.4%
その他	25	1.9%
無回答	34	2.6%
回答人数	1,316	
回答件数（複数回答）合計	3,551	

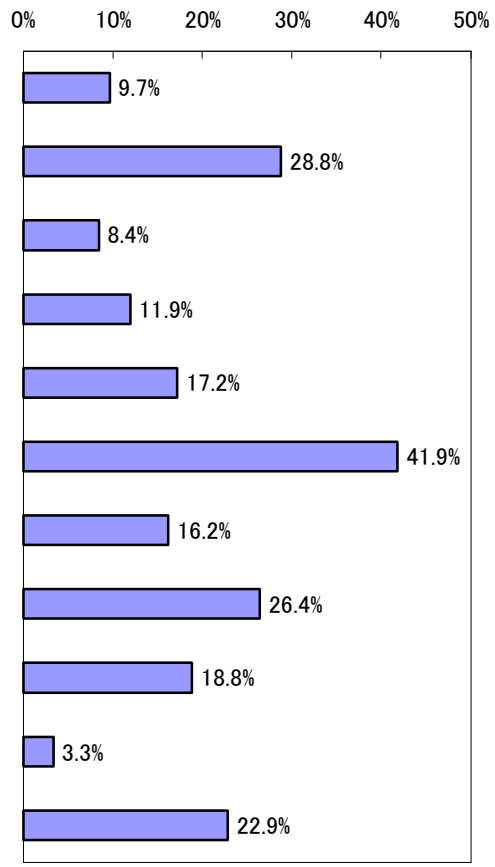


事故やけがの予防に関する情報源については、「家族・親戚」が 61.0％と最も多く、次いで「友人・知人」が 52.8％、「保育園・幼稚園」が 46.0％となっている。

「その他」の具体的な内容としては、「新聞」、「職場」、「母子手帳」等が挙げられた。

問８　お子さんの事故やけがの予防のために、より充実して欲しいと思うものは、なに（どこ）ですか。（３つまで○）

問8	件数	割合
子育てサークルなど	127	9.7%
テレビ・ラジオ	379	28.8%
育児雑誌	111	8.4%
インターネット（SNSを含む）	157	11.9%
子育て教室・講座	226	17.2%
保育園・幼稚園	551	41.9%
保健所	213	16.2%
病院	348	26.4%
子育て支援施設（りぼんかん・なかまっちなど）	248	18.8%
その他	44	3.3%
無回答	301	22.9%
回答人数	1,316	
回答件数（複数回答）合計	2,705	

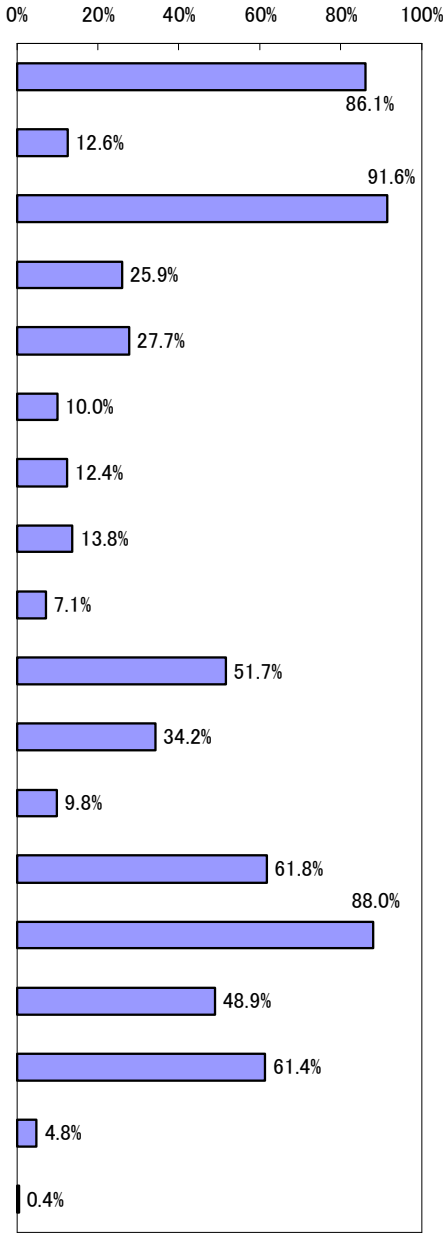


事故やけがの予防のために充実して欲しい情報源については、「保育園・幼稚園」が41.9%と最も多く、次いで「テレビ・ラジオ」が 28.8%、「病院」が 26.4%となっている。

「その他」の具体的な内容としては、「地域・町内会」、「広報誌」、「新聞」等が挙げられた。

問９　あなた(保護者)は、日頃からどのような子どもの安全対策をとっていますか。
（あてはまるものすべてに○）

問9	件数	割合
車に乗る際にチャイルドシートを使用する	1,133	86.1%
自転車に乗る際にヘルメットを着用させる	166	12.6%
道路を歩行する際、手つなぎやだっこをする	1,205	91.6%
よく体をぶつけてしまう家具などの角にカバーをしている	341	25.9%
たんす、食器棚、冷蔵庫の扉が開かないように安全グッズを設置している	365	27.7%
ドアやとびらに手を挟まないように安全グッズを設置している	132	10.0%
窓や扉から飛び出さないように安全グッズを設置している	163	12.4%
階段に転落防止柵を設置している（昇らないような防止柵も含む）	181	13.8%
ベッドに転落防止柵を設置している	94	7.1%
ベランダから身をのりださないように台座などは置かないようにしている	680	51.7%
トイレの中に落ちないようにする子ども用の便座やふたをしている	450	34.2%
浴槽ですべって溺れないようにすべり止めを設置している	129	9.8%
浴槽の水は残さないようにしている	813	61.8%
ライター、刃物など危ないものは、子どもの手の届かないところに置いている	1,158	88.0%
たばこを放置しない	643	48.9%
かかりつけの医療機関や緊急時の連絡先が分かるようにしている	808	61.4%
その他	63	4.8%
無回答	5	0.4%
回答人数	1,316	
回答件数（複数回答）合計	8,529	



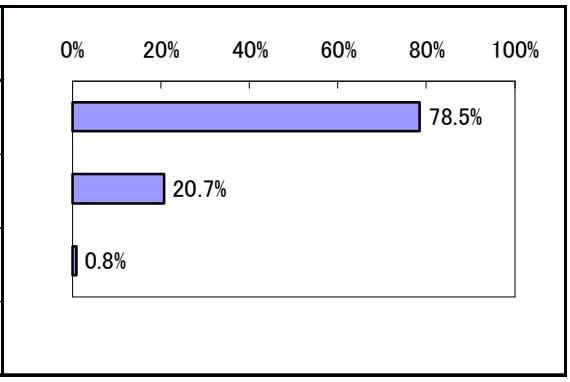
安全対策については、「道路を歩行する際、手つなぎやだっこをする」が 91.6%と最も多く、次いで「ライター、刃物など危ないものは、子どもの手の届かないところに置いている」が 88.0%、「車に乗る際にチャイルドシートを使用する」が 86.1%となっている。

「その他」の具体的な内容としては、「危ないことをその都度教える」、「家の遊ぶところにマットを敷いている（転んでも衝撃が少ない）」等が挙げられた。

問 10　あなた（保護者）の子どもの安全に関する考え方についてお聞きします。

問 10－１　子どものけがについて（ひとつに○）

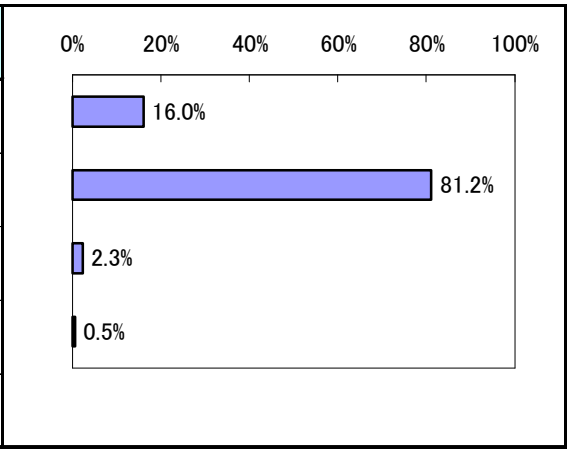
問10－1	人数	割合
子どもは小さいうちはけがをするものだ（ある程度のけがは仕方がない）	1,033	78.5%
大人や社会が環境を整えて、子どもには小さなけがもさせない方がいい	272	20.7%
無回答	11	0.8%
合計	1,316	100.0%



子どものけがについての考え方については、「子どもは小さいうちはけがをするものだ（ある程度のけがは仕方がない）」が 78.5%、「大人や社会が環境を整えて、子どもには小さなけがもさせない方がいい」が 20.7%となっている。

問 10－２　子どもの安全について（ひとつに○）

問10－2	人数	割合
子どもの安全は、家庭が責任を持って確保すべきだ	211	16.0%
子どもの安全は、家庭だけでなく地域も一体となって取り組むべきだ	1,068	81.2%
その他	30	2.3%
無回答	7	0.5%
合計	1,316	100.0%

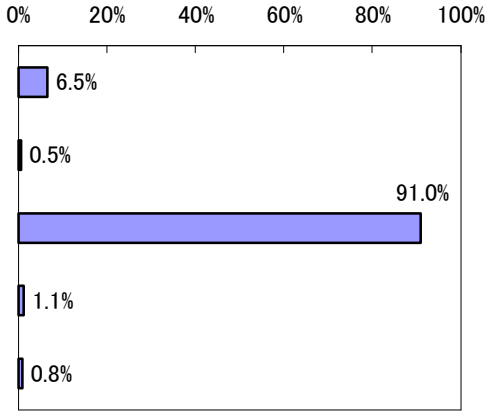


子どもの安全についての考え方については、「子どもの安全は、家庭だけでなく地域も一体となって取り組むべきだ」が 81.2%、「子どもの安全は、家庭が責任を持って確保すべきだ」が 16.0%となっている。

「その他」の具体的な内容としては、「家族、地域・子ども自身も気をつけるべき」、「家族が中心、地域・行政は補助的」等が挙げられた。

問 10－３　子どもの安全教育について（ひとつに○）

問10－３	人数	割合
子どもの安全教育は、家庭で責任を持って行うべきだ	86	6.5%
子どもの安全教育は、家庭ではなく保育園や幼稚園が行うべきだ	7	0.5%
子どもの安全教育は、家庭と保育園・幼稚園、行政が協同で行うべきだ	1,197	91.0%
その他	15	1.1%
無回答	11	0.8%
合計	1,316	100.0%



子どもの安全教育についての考え方については、「子どもの安全教育は、家庭と保育園・幼稚園、行政が協同で行うべきだ」が 91.0%と最も多く、次いで「子どもの安全教育は、家庭で責任を持って行うべきだ」が 6.5%、「子どもの安全教育は、家庭ではなく保育園や幼稚園が行うべきだ」が 0.5%となっている。

「その他」の具体的な内容としては、「あらゆる機会が教育の場であるため、限定せずに広く呼びかける必要がある」、「子どもの安全教育は家庭が主体、保育園・幼稚園、行政がサポートすべき」等が挙げられた。

問 11　事故やけがの予防に関しご意見、ご感想などありましたらご記入ください。

ある程度のけがは仕方ないこともあると思いますが、やはり出来る限り周りが環境を整えてあげるべきだと思います。 また、最近はさまざまな犯罪も多いため、家庭内でのけがだけではなく地域の安全も強く望むところです。
知識のなかった事により子どもが事故・けがをした場合、親の責任だと責め立てず、そのようなことのないように知識、情報を親には教えておくべきだと思います。 知識や情報があれば親は子どものためにできることは懸命にすると思います。
仕事が忙しいため、子どもの成長がよくみえていない部分があり、いつの間にかできないことが出来るようになっていて、危険な行為や事故につながっています。指に小さなやけどですみましたが、届かないと思っていたところがもう届くようになっていたり、段差を登れるようになったりと自分（親）ももっと注意が必要だと反省しました。
けがをして覚えていくこともあると思います。前を見ていなかったからぶつかった、周りを良く見ていなくてけがをした、大人でも紙で手を切ったりすることもある。そうしたことで、あ一紙でも手を切ることがあるのだと知ることも出来る。でもやけど、交通事故のようなものは、ころぶ、ぶつかるとは、話が違う。大人が事故は怖いものだと教えて、未然に防ぐことが大事だと思います。予防とけがをして知る。二通りの方法があると思います。
キケンと認識できる歳までは、ある程度の体験や経験が必要かもしれません。「痛い」や「危ない」と気づかせる工夫が知りたいです。
事故やけがなど予防できればとてもいいことだと思いますが、あまりにも予防、予防といって危険なことが何もない生活をしても、子どもたち自身の危険予防察知能力も低下すると思います。大事なのは子どもの知識、意識を高めることではないでしょうか。
親は子どもがけがや事故にあわないように注意しながら生活しています。乳幼児がいれば、誤飲しないように危険なものは置かず、全て撤去する等、子どもの成長に合わせて対応も考えなければならない。しかし今現在、社会ではいろんな事件や事故など起きている。親と地域、学校（保育所・幼稚園等）が一緒になり、ひとつになって子どもたちを守っていかなければならないと思う。
家の中でおもちゃが散乱し、ふんだり、つまずいたりするときがある。これを機にもう一度、安全を考慮した環境作りをしてみたいと思う。また年齢が上がるにつれ、外に出る機会も増えるため、今後は交通事故防止についても教育していきたいと思う。
子どもが7～8ヶ月のときにやけどをしました。ラーメンに手を突っ込み、気を付けていたのですが一瞬の出来事でした。お祭りのときだったので救護係の方がやけどした手を冷やし続け、指示をもらい、そのまま病院に行きました。先生は「やけどは最初の30分の手当（対処）で全てが決まる」とおっしゃっていました。私はやけどしたら「氷や水で冷やす」ということは知っていましたが、「最低30分は冷やし続ける」ということは知りませんでした。そのときの救護係の方に感謝しました。

4歳になり、ある程度危険なことが理解できており、この1年間ではさほど大きなけがはなかった。2～3歳のときには、食べ物を詰まらせて窒息しかかったり、ふいに飛び出して事故に遭いそうになったりとヒヤッとすることが多かった。私は、溺れた子どもを見たこともあり、お風呂には特に注意している。保健所等の健診時に危険予知能力を高めるための活動も大切になると思う。
家でできることはできる限り頑張っていこうと思いますが、交通事故など不慮の事故には大人が全員で気をつけるよう、私自身も他の子どもたちに対しても気をつけていきたいと思います。
2階ベランダの塀をおもちゃの車を足場にして登り、屋根からコンクリートの地面に落ちてしまいました。頭蓋骨を骨折しましたが、現在は後遺症もなく元気に過ごしています。事故当時は、1階で私が洗濯をしていて、2階のベランダに行ったときに下を見たら落ちていました。 ベランダに柵をつけていたら未然に防げる事故でした。事故後、ベランダに柵を付けてもらう工事をしました。
買い物の駐車場でのことですが、車より小さい背丈の子をよく手もつながず歩いている保護者がいます。駐車場内はスピードが出ている車もいるので、我が子を守るのも親の役目だと思います。 手をつなぎ、一緒に歩く心掛けが必要だと思います。ファミリーカーは特に高くなっているので、止まっている車と車の間から飛び出してくる子でヒヤッとすることがよくあります。そういったチラシや、お店の方も看板なりを設置した方がいいのではないかと思います。
チャイルドシートや転落防止柵は一時期しか使わないので、不要になったものは市が引き取り、貸し出しするシステムがあると助かる。一時期しか使わないのに結構価格が高いので柵はなかなか購入に至らない。実家のある市では、社会福祉協議会がその役割を担っている。「消費者庁　子どもを事故から守る！プロジェクトのメールマガジン」がとても参考になる。メールが来るたびに、気が引き締まります。 子どもは大人のすることをよく見て真似するので、日ごろから大人が交通ルールを守ったり、危ないことを子どもの前で出来るだけしないようにしないといけないと思います。まずは大人の意識改革が必要だと思います。
味噌汁に手を入れてしまい、危うく火傷をするところでした。すぐに冷やし、特に大事には至りませんでした。それからは、汁物は必ず最後にテーブルに置くようにし、前より注意して手の届かないところへ置くように心掛けています。ほんの小さなものでも口に入れるので、こまめに掃除をし、なるべく口に入れないようにも心掛けています。未然に防げることも多いと思うので、これからも気をつけていきたいと思います。
子どもの成長にけがはつきもので、それで子ども自身の危険に対する能力も高まると思う。

小さなすり傷は仕方のないことで、強い子を育てるのに必要だと思いますが、命に関わることは予防できることがたくさんあります。子育て〈4つの離さない〉の中で、手を離さない、目を離さないとあります。子どもを伸び伸びと育てたい気持ちもありますが、手を離さないように、目を離さないように見守っていきたいです。
２人の子どもがいるので、ついつい下の子への安全確認が上の子よりゆるくなっている自分がいました。でも改めて気をつけようと思えるきっかけになりました。ありがとうございます。保健センターなどの集会がありますが、ほとんどが第１子目の親が対象で2人目以降のお母さんたちは新しい情報や、同じ歳の子どもを持つ母親同士の関係が希薄で、かなり孤立していると思います。大変とは思いますが、何か集まりの機会を増やすと、また人間関係もよくなり、もっと子どもたちを守ろうという気持ちの輪が広がると思います。
予防しても防ぎきれないことも多いので、けがの後の対処法も詳しく知りたいです。成長段階にある子どもはきちんと治療、対応していないと、成長して大きくなってから影響が出てくることも多いようです。市民のひろばなど、けが、事故の統計をのせて、子を持つ親だけでなく、地域など多くの人が知れるように情報があると意識が高まるのではと思います。